

冷却に対する下部食道機能の 反応性変化

Changes in distal esophageal
function in response to cooling:
Kaye MD, Kilby AE, Harper PC
(Dig Dis Sci 32: 22-27, 1987)

冷たい液体は食道の収縮波形を変化させ、食道の機能的疾患を有する患者では疼痛を惹起するとされている。しかし、最近、健常者にアイスクリームを急いで食べさせ惹起した胸痛時の食道は無収縮で拡張状態にあることがわかり、この痛みは痙攣以外のメカニズムによることが示唆されている。

著者らは冷たい液体が LES および食道に及ぼす影響を明らかにする目的で検討を行った。

9 例の健常者と 2 例の食道痙攣を

有する患者を対象に 200 ml の 0 度あるいは 23 度の水の一気飲みか 5 ml ずつの飲水の繰り返しでの LES、食道のマノメトリックによる変化を検討した。

200 ml の冷水の一気飲みの際に LES 圧は有意に減少したが、この現象は 23 度の水 5 ml ずつの飲水で短時間に回復した。また、冷水の飲水時には、食道の収縮は全く認められなかった。食道の収縮波は冷水時アンプリチュードおよび持続時間ともに減少し、波動速度も遅くなった。200 ml の一気飲みで食道蠕動波のアンプリチュードは有意に減少した。しかも、その回復は LES 圧の回復よりも回復が遅かった。LES のほうが食道よりも冷却に対して抵抗性があることが示唆された。

以上の結果、冷水による胸痛は食

道の痙攣によるのではないことが示されたと共に、冷水により LES 圧が高まったりあるいは LES の弛緩が障害されることによる機能的 LES 閉塞とそれによる食道拡張が痛みの原因とする説は根拠のないものであることが示された。

【訳者コメント】冷たいものを一気に飲み込んだ際に胸骨後部に疼痛を覚えることは割と経験される。訳者も、このメカニズムは急激な冷却によって惹起される食道のスバズムと考え、そのように一般の方に説明していたが、本論文では否定的である。真のメカニズムは不明であるが興味ある報告である。

(愛知県がんセンター消化器内科

伊藤 克昭 抄)